

1 会場について

会場のサンケイプラザは大手町にあるので交通の便がよく集まりやすい。
広さは300名程度までであれば十分な広さはある。

音については、他の会場の妨げになる恐れがあるため、バンドや音が大きい楽器（トランペットなど）などは使用不可。

音響、映像装置は、十分とは言い切れない。実行委員の努力と工夫で何とか支障なく出来た。

大手町という場所柄のためか、パーティ会場を主体とした施設ではないように思えました。ビジネス会議、学術会議などが主な目的のようでした。

上記のような制約にも係わらずプロの歌手を招いたり、インタビュー&スクリーンのイベントは予想以上に盛り上がりうまく行ったと思う。

提供される飲食は標準的と思われる。

会場側で提供する食べ物に加えて実行委員会が故郷の酒、食べ物を提供しており量的には十分過ぎると思う。

会場のテーブル配列など下準備は適切であったと思う。

鶴岡市東京事務所から拝借したタペストリー、観光課から提供いただいたポスター等を壁に飾ったが、どれほどの効果があったかわからない。

担当者等の対応は悪いわけでないが、さほど積極的な対応ではない。

2 2次会会場について

今回の2次会場所は、「素材屋2号店」

サンケイプラザはビジネス街のため週末、祝日は営業している飲食店は少ない。
また100名以上を受け入れることができる店はそれほど多くない。

場所については、前回に使用した店はサンケイプラザの隣のビルにあったが、その改修のため使用できず、同系列の2号店を確保した。

普通に歩けば5分程度だが飲んだ後であり、年配の方も多いため、遠いという印象を持った人もいた。

サンケイプラザからの移動経路の要所に案内人を配置したので無事に移動できた。1次会の会場から2次会会場までの案内と誘導は、安全確保の観点から重要ポイントの一つである。

参加人数の予測が難しい。今回は、120名で想定したが、実際は150名以上であった。

そのため食べ物、飲み物の提供が追いつかず一時的であるが混乱が生じた。

提供が遅いことから店の従業員に暴言を吐き、怒らせたり泣かせたりするとはどういうことか。その程度のOB生と思われるも仕方がない。

更に何かの勢いか拍子で店の器具備品を倒したりし店側に迷惑をかけた。（器物損壊まではいかなかったが）

一次会で出来上がっているため、気が大きくなって上記のようなことが生じるのだろうが、各自、少し反省してほしい。また、二次会は実行委員会の準備から外してはどうかと思います。

3 総括

半年以上の準備期間を経ての本番であり、自己評価としては参加者皆さんに喜んで頂けたかと思えます。

終わってからの安堵感、達成感、充足感を覚えたことも確かであります。

現在のような形式になったのは、各年度の反省の上になんて改善してきた結果と思えます。毎年の幹事年度、役員の方のご苦労は大変なことだったろうと推察します。ここまで積み重ねてきた諸先輩のご努力に改めて敬意を表したいと思えます。

しかしながら、現状は実行委員会を担う世代に多大な負担を負わせており、延いては、そうした負担を嫌って同窓会の縮小、消滅に繋がりはしまいかとの懸念から記録させて頂きません。

1) 会場の立地条件はいいが、もっと宴会に適当な会場でもいいのではないか。

2) 実行委員会が準備すべき項目が多く負担が大きい。

— 飲食の提供とイベント実行は実に大変なので、会場側に任せられるような施設に変更できないか。

3) 卒業年度による実行委員会の体制を改めては如何か。

— 就労年齢が高まり60代でも仕事を持っている人が多くなっており負荷が重くなっている。

— 若年層も加え新しい視点、発想による意見を反映できる委員会でもいいのではないか。

4) 実行委員会で2次会まで準備する必要があるのか。

— 2次会は各学年やその前後の学年が手配する形式の方がいいのではないか。

— 店に迷惑をかけてまで実施するようなことではないだろう。

— 店の選定がどうこうということではなく、OBの資質の問題だ。

5) 同窓会の意義と目的に統一性がないのではないか。鶴岡南高校（旧制も含む）同窓会と鶴岡市/荘内同郷会の2つのカラーが存在した。

— 2つのカラーが実行委員会の活動を複雑なものにし時間がかかる要因の一つであったと思われる。

— タペストリーや観光ポスターの掲示は、同窓会より同郷会の趣を主張するよう感じられた。（前例を踏襲したわけだが）

— 郷土愛は大事なことであり、郷土の発展を願う気持ちは強く持っているが、同郷会色を南高の同窓会に組み入れるのは適当なのか。

— 端的に言えば、同窓会で郷土の飲食物を提供するのはどうなのか。この便利な世の中で、入手する手段はほかにも幾らでもあると思うのだが。

— 今後は、もっと同窓会カラーに集中した方がよいと考えます。実行委員会の負担をなるべく少なくし、今後とも同窓会が継続できるように簡素化出来ればよいと思えます。

6) 個人的には、会社のプロジェクトを抱え、ボランティア活動もある中での実行委員活動は正直に申し上げて相当な負担でした。忘れてしまいたい気持ちが強くなり、見当違いの方向に考えが向かってしまいます。つまりですね、しばらく、同窓会から距離を持つよう思いました。

会合履歴

	月日	場所	摘要
1	2018/11/9	駒込学生会館	全体引継ぎ会
2	2018/12/14	駒込学生会館	第1回実行員会
3	2018/1/30	サンケイプラザ	会場責任者挨拶・下見
4	2019/2/15	駒込学生会館	第2回実行員会
5	2019/2/18	SAKE BAR 心	学年委員会・懇親会
6	2019/2/25	竹ノ塚	イベント分科会
7	2019/2/28	素材屋2号店	2次会会場下見
8	2019/3/6	素材屋2号店	学年委員会・懇親会
9	2019/3/8	鶴岡市東京事務所	挨拶・協力依頼
10	2019/3/8	駒込学生会館	第3回実行員会
11	2019/3/12	SAKE BAR 心	学年委員会・懇親会
12	2019/3/22	北千住	イベント分科会
13	2019/4/12	駒込学生会館	第4回実行員会
14	2019/4/20	梅島	イベント分科会 マリリン打合せ
15	2019/5/9	サンケイプラザ	映像音響効果・座席位置等確認
16	2019/5/10	駒込学生会館	第5回実行員会
17	2019/5/15	駒込学生会館	試食会
18	2019/5/16	虎ノ門琴平タワー	会場部会打合
19	2019/5/28	鶴岡市東京事務所	貸借物確認・配送物手配
20	2019/5/31	駒込学生会館	第6回実行員会
21	2019/6/6	サンケイプラザ	前日最終確認・2次会移動確認

備考

上記会合は私（野田）が出席したものであり、参加していない打合せは含まれていません。

会場部会は、担当範囲が広いので幾つかの分科会を設置し、そこに各責任者を置きましたが、効率がよかったと思われます。

会場部会の活動は、会報、広報活動の後になるので、前半は他部の動きを確認することでよい。

イベントをどうするかを決める必要があるが、うまく見つからないときはなくてもいいと思います。

出席者の確認、座席表作成、式次第など残り2か月が作業量のピークとなるので、下準備は早めに始めると負荷が平準化されると思います。

負担が重すぎると感じる時は、常任委員と相談し軽減、省力を検討してください。

実行すべきことの手順については、常任委員に予め確認するようにしてください。

実行委員会の席上で、「・・・の準備は進んでいますか？」など、予備知識もないままに突然聞かれて答えようがないことが多々ありました。

こっちは、そんな手順は知らないのだから、「次は・・・の準備がありますよ」から指導すべきではないかと思ひます。

以上

主な連絡先

氏名	役職	会社名/所属名	電話
平松寿彦	次長	大手町サンケイプラザ	03-3273-2258
田口正幸	店長	素材屋大手町2号店	03-5204-0370
白井 覚	所長	鶴岡市東京事務所	03-5696-6821
上野直也	専門員	鶴岡市東京事務所	03-5696-6821
深野修一		鶴岡市観光連盟	0235-25-2111